

大学連携 ～最先端研究の講演を聞いて～

9月13日(日)に工学系1年生の希望する生徒が、OIT テクノフロンティアに参加しました。講演は、2003年、小惑星探査機「はやぶさ」が地球を出発し、小惑星「イトカワ」に到着して科学観測を行い、2010年に地球帰還するまでの、さまざまな苦難の道のり、現在のはやぶさ2の研究について聴くことが出来ました。数万光年離れた惑星は、望遠鏡では光の点でしかありません。その惑星から鉱物を持ち帰り、電子顕微鏡で見ると原子レベルの調査が出来ます。空想や仮説を立て、実際に立証することができる宇宙開発のお話は、生徒たちに大きな夢と希望を抱かせてくれました。



第1回：「はやぶさ」1号2号が拓く宇宙探査

場所：グランフロント大阪

主催：大阪工業大学 工学部

生徒たちの感想（抜粋）

- 日本のロケットは人が乗れる大きい物だと思っていたが、他国に比べ小さい事が分かった。その分さまざまな技術が詰め込まれている事を知ることが出来た。
- 日本とアメリカの宇宙開発手法の差が大きすぎて衝撃を受けた。しかし、イオンエンジンや複雑な構成で作られるプラズマ技術等、日本独自の発展をしている凄さも同時に感じた。
- 動画で打ち上げを見たけど、実際に見てみたいと思った。地球から見えている太陽の光は、8分後の光を見ていると知って、「おもしろい」と思った。
- 「はやぶさがイトカワの姿を捉えて、着陸するまでの2週間がとても幸せな時間」と言っていた時、とてつもない努力と喜びを共感することが出来た。宇宙への憧れを初めて強く感じた。
- 最終的には地球に帰って来られたが、そこには人工衛星に問題が起きた場合をいくつものセーフティネットを掛けることで、解決することが出来た。宇宙開発に関わる人はほんとに凄いです。